

News 4

芸文短大 学科ニュース

美術科

▶ 専攻科の学生が
ポスターを制作しました！

大分市とJICA九州主催で行われる「おおいた国際協力啓発月間 in 2010」のポスター（写真右）を本学専攻科造形専攻1年・原 恵里奈さんがデザインしました。微笑む口元とともに、2つの輝く地球が世界を見つめる眼差しになっていて、とても印象深くて親しみのもてる作品です。

また、九重町の宝泉寺温泉旅館組合からは名月の秋を楽しむ「観月祭」のポスターデザインの制作依頼があり、専攻科造形専攻1年・小野 智子さんの作品（写真左）が採用されました。名月を觀賞するイベントにふさわしく優雅で情緒あふれるデザインは、秋の宝泉寺温泉を華やいだ雰囲気にしてくれることでしょう。

▶ NHK交響楽団団員による
特別公開レッスン開催

本学と大分県文化スポーツ振興財団の協定により結成された「iichikoグランシアタジュニアオーケストラ」の指導に来県している、NHK交響楽団団員による特別公開レッスンが8月3日～5日、本学で行われました。今回は、フルート・甲斐雅之氏、ヴァイオリン・松田拓之氏、篠崎史紀氏（写真左）、ヴィオラ・小野富士氏、クラリネット・松本健司氏、トロンボーン・池上亘氏によるレッスンが行われ、20名の管弦打コースの学生が受講しました。



音楽科

国際文化
学科▶ 竹田キャンパスで
合同ゼミ合宿をしました

7月3、4日、日本文学とフランス文学ゼミが合同で、ゼミ合宿を竹田キャンパスで行いました。初日は、それぞれのゼミに分かれての勉強会や研究発表。野坂ゼミは川端康成を中心に、永田ゼミは、〈フランス古典演劇〉や〈カルメン〉など、各自が卒業研究であつかうテーマを発表しました。中山学長にも参加していただき、貴重な意見を伺うことができました。豊かな自然に囲まれた環境ということもあって勉強もはかどりました。その後、夕食は校内でバーベキューをしました。2日目は、竹田キャンパスに常駐されている前田先生の手ほどきで染物に挑戦（写真）。実り多い一泊二日の合宿となりました。

▶ SAEMON23（第37回清正公二十三夜祭歩行者天国）
に参加しました

7月23日、大分市鶴崎で開催された「SAEMON23」に今年も多く芸文短大生が参加しました。5月にサービラーリングとして参加を呼びかけ、約100名の学生が集結。出店・エコ・デザイン・ダンスの4班に分け、毎週金曜の昼休みに企画運営会議を行いました。誰もが参加できるようにと、出店班は団扇づくりのワークショップや輪投げなどのゲームコーナーを、エコ班は会場内のゴミを持参してくれた人へ綿菓子配布するエコステーションを設置。どちらも列を成すほど大盛況でした。メインステージではデザイン班お手製の衣装を纏ったダンス班が、オリジナルの曲と振り付けで可憐に舞い、会場を魅了しました。

情報
コミュニケーション
学科

学長コラム

中山 欽吾

「地域との交流2題」

私がまだ子供だった頃、都市計画で大分市街の真ん中に昭和通りができて、今の市役所前の路上で盆踊り大会が開かれるようになりました。この盆踊りでは、主として優雅な猿丸太夫が踊られていて、活発な左工門はあまり長時間踊られることはなかったと記憶しています

それまで記憶の薄かった左工門が、ロック音楽で演奏できるように編曲され、若者達が踊るSAEMON23に生まれ変わったことや、芸文短大の学生達が企画段階から任されて、お祭りを盛り上げていることも、昨年参加して初めて知りました。閉鎖された国道いっぱいを使って踊る姿も音楽も素敵でしたが、本部の壁に掲げられた美術科のメンバーの描いた大きなイラスト、スタートの合図となった和太鼓サークルの熱演、美術、染色の出店での活躍や、大量のゴミを集めて分別整理したり、イベントの司会や運営を取り仕切った学生達の、実に生き生きとした活躍を目の当たりにして、子供時代の記憶が新たなSAEMON23に塗り替えられたのです。

あっという間に1年が経ち、今年もSAEMON23に行っ

てきました。酷暑の中、今年も芸文短大の出店が増えて大活躍。踊り隊やゴミの分別収集隊も自作のTシャツが輝いていました。

一方、竹田キャンパスでの活動も着実に進んでいます。生活造形の学生達が参加した交流会では地元の皆さんが運動場の真ん中に準備してくださった、でっかいキャンプファイアを囲んだ老若男女の盆踊りがご近所のおばちゃん達の指導で盛り上がる、素敵な一夜になりました。学生達が現場で枠作りからうけつ染めで絵付けまでした100個近くの灯籠に火を入れて、同心円状に並べました。美味しい豊後牛と地元で採れた新鮮野菜でのバーベキューパーティでは、学生も教わりながら作ったおにぎりやお団子も食べ切れないほど。竹田市からは梅木副市長さんも駆けつけ、夜の更けるのも忘れて学校に賑わいが戻ったことを喜び合いました。

この竹田キャンパスでは、ゼミ合宿、ミュージカルの稽古合宿、韓国映画上映会など、本格的な利用が始まっており、改めてコミュニティの中心にある学校の持つ大切な役割を考えたことです。



似顔絵／小野 智子
（専攻科 造形専攻1年）

New
face新任
教員紹介

国際文化学科に新しいアメリカ人講師が着任

国際文化学科の新人教員のジュリー・ヌートバーと申します。アメリカのカリフォルニア出身で、ちょうど20年前に大分にきました。日本人の夫と中学2年生の双子とペット2匹で、にぎやかなファミリー生活を送っています。田舎にある夫の実家の近くに暮らしており、毎日、日米の文化比較を肌で体験し、楽しんでます。国際交流員や大学教員を主として仕事をしましたが、翻訳や通訳の経験もあります。毎年、大分国際車いすマラソン大会のボランティアもしています。アジア研究、日本研究を専攻してきましたが、最近、欧米と比較して日本の入浴文化を研究しています。日本にきて間もないころの話ですが、職場の（日本人）上司の家に招かれ、食事をしながら楽しいひ

と時を過ごした後、「ジュリー、お風呂に入って帰らない？」と聞かれてびっくりしました。さらに数週間後、（日本人）同僚に「今度の週末、一緒にお風呂に入りに行こうか」と言われて、ショックを受けました。毎日、家のお風呂で体を洗っているのに、まさかキタナイと思われているのでしょうか。その後、少しずつ日本人とお風呂の深い文化がわかってきましたが、みなさんは、お風呂が好きですか。

これからは、日米文化比較やアメリカ研究、英語コミュニケーションなどを担当させていただきます。一緒に異文化理解や異文化間コミュニケーションを深めていきましょう。よろしくお願いいたします。

他大学に転出されたグレゴリー・グッドマーカー准教授の後任として、新たに国際文化学科にジュリー・ヌートバー講師が9月1日付で着任されました。

